

YWVOB会 会報 No.34

横浜国立大学ワンダーフォーゲル部OB会

<http://hw001.gate01.com/hkanoh/index.htm>

2006年 12月 25日発行

～ 34号の目次 ～

・2007年度OB総会報告・・・・・・・・・・1	・期別報告(46期)・・・・・・・・・・17
・OB役員会報告(第4回)・・・・・・・・・・8	・自由投稿(東北山紀行)・・・・・・・・・・18
・50周年記念事業実行委員会より・・・・・・・・8	・自由投稿(クラシックギターコンサート)・・22
・第18回シニアの集い報告・・・・・・・・・・9	・OB会員近況報告(総会参加葉書より)・・22
・OB山行報告(瑞牆山・矢倉岳)・・・・・・・・14	・現役部員の近況報告・・・・・・・・・・24
・2007年度OB山行予定・・・・・・・・・・16	・苗名小屋雪下ろし隊の募集・・・・・・・・25

■ 2007年度OB総会報告

幹事長 石川 真 (41期)

副幹事長 小野恵美子 (34期)

〔日 程〕2006年11月12日(日) 15:00～17:30

〔会 場〕横浜駅東口スカイビル27階 クルーズ・クルーズ

〔出席者〕嘉納[1]、吉野[2]、郡司[4]、斎藤(伸)[4]、亀井(良)[5]、服部[7]、鈴木[9]、下村[10]、安藤[11]、丸山[11]、榎本[12]、山川[12]、中島[15]、小浜[17]、山口(貢)[18]、武藤[20]、西田[20]、横溝[21]、津江[22]、楠本[28]、松田[31]、小野[34]、後藤[39]、覚田[40]、石川[41]、塩野[46] (計26名)



1. 当日の様様

2007年度のOB総会が横浜スカイビル内のレストランにて開催されました。今回は食事をしながら手短かに議事を執り行う形をとり、肩肘の張らない総会となりました。日和もよく、会場の窓からは富士と丹沢、箱根方面の山々が美しく見えました。夕景まで楽しみながら、和やかな雰囲気の中で議事を進め親睦を深めました。

2. 会長挨拶

OB 会会長 嘉納秀明（1 期）

快晴の良き日にお集まり下さいましてありがとうございます。本年は創立 49 年目の年であり、この総会では来年に迎える 50 周年にその祝賀実行計画を決定し、実行貫徹していく決意を確認しなくてはなりません。ご出席の皆様には、この計画に関して忌憚のないご意見を賜りまして、良き企画を確立したく存じます。また、この実施に関しましては積極的なご参加をお願い申し上げます。

OB 会の運営においては、会の財産の保全に意をもちいて参りましたが、とくに苗名小屋の土地借用の契約が建設後 20 年を経て以来、契約書の有効性が失効しておりました。きちんと毎年の借地料を支払って参りましたので、実質的な契約は継続されていると解釈して契約書なしの状態を続けて参りました。しかし、このような状態は非常に不安定であり何とか新たに契約をしたいと考え、この度 8 期池原さんをお願いして交渉して頂くことにしました。この結果、ちょうど 10 日前に新契約を岡田悟さんと結ぶことができました。ここに皆様にご報告ができますことは誠に喜ばしいことであります。ご尽力された池原さんを始めとする山小屋委員会の皆様に御礼申し上げます。契約の本会代表者として 14 期鈴木道夫さん名義で契約しております。鈴木さんには重責を担って頂きますことに感謝の意を表したく存じます。また旧契約書の名義人を続けてこられました 4 期郡司直樹さんにも長い間のお役目ご苦労様でしたと申し上げたく存じます。

OB 会の活動につきましては、この 1 年もここ数年間と同様に順調に行われて参りましたが、活動参加層が固定化されていますことは否めません。現在の社会情勢が厳しくなかなか OB 活動にさく余裕がない事情もあるかと存じておりますが、是非ともこの楽しい活動に戻ってこられることを切望しております。昨今は団塊の世代が定年を迎えつつあり、この年代の方々が新たな活動の場に出てこられる状況になっております。50 周年を契機として我が OB 会の活動の主力もより良い方向に変化してゆくことを期待しております。

それでは皆様来る年に盛大に 50 周年を祝おうではありませんか。そしてワンダーフォーゲルが現役、OB ともにますます発展することを祈念して乾杯したく存じます。 乾杯。

3. 出席者自己紹介

テーブルを囲んだ順にマイクをまわして自己紹介。

皆様ユーモアたっぷりに近況を語って下さいました。



4. 定足数確認

出席会員 26 名、委任状 119 名分をもって本総会は成立。

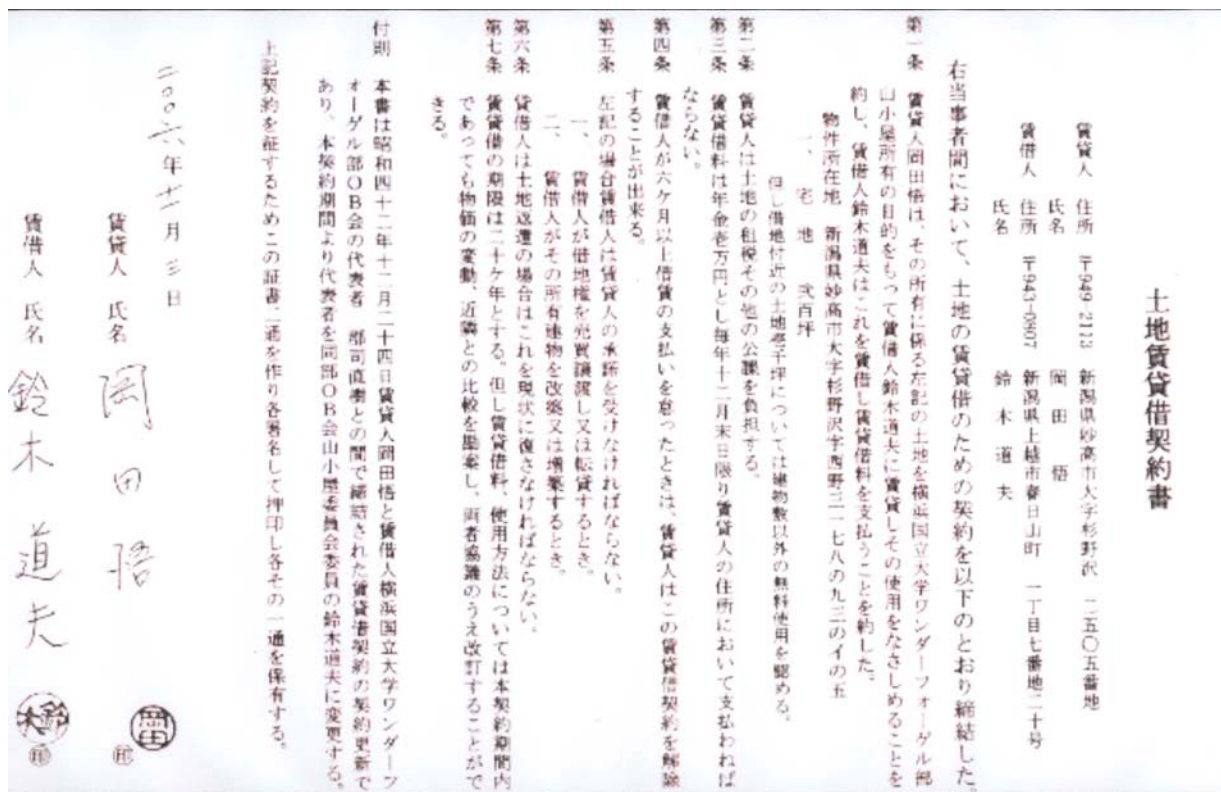
5. 2006 年度 OB 会活動報告

① 役員会 (石川幹事長)

本年は予定通り 4 回 (1/15, 4/23, 7/29, 10/28) の役員会を明治大学の教室をお借りして開催した。主な議題は 50 周年記念事業や山小屋について。

② 山小屋委員会 (後藤小屋委員長)

冬季雪下ろし補助について、OB 会員にも適用範囲を拡大した。また小屋の土地賃貸借契約書を更新した。



③ OB 山行委員会 (小野 OB 山行委員長)

第 15 回大菩薩嶺(12/6)、第 16 回檜洞丸(5/13)、第 17 回瑞牆山(9/9)

雪道や雨など多様な天候の中で 3 回の OB 山行を実施し、変化に富んだ山行が楽しめた。

④ 編集委員会 (下村編集委員長)

OB 会報 31 号(12/23)・32 号(4/1)・33 号(9/1)を発行。ご協力有難うございました。

【承認】 以上活動報告について、満場一致で承認された。

⑤ 支部報告 (渡辺享英関西支部長)

①人員 H18 年 10 月末現在の関西支部員は下記の通り。

1 期 田上栄一 佐藤文雄 2 期 西村郁代 宮崎紘(特別会員)

3 期 渡辺享英 宮崎裕子 4 期 斎藤貞夫 泉充子

5 期 三宅雅也 早藤哲夫 向井久弥(特別会員) 諸角壮弐(特別会員)
諸角絢子(特別会員)

9 期 近藤元恵 馬場誠一 松川靖 13 期 小沢陽子 18 期 伊達誠一

19期 高松仁子 20期 大村貞良 24期 山辺俊樹 27期 遠藤勝哉
 30期 勝美 健 33期 原 倫江 35期 越智久美子 37期 富士田誠之
 以上 正会員 22名 特別会員 4名 前年比 4名 減

②役員

支部長 渡辺 享英(3期) 幹事 斎藤 貞夫(4期) 昨年と変わりなし

③会計報告

収 入		支 出	
費 目	金 額(円)	費 目	金額(円)
前期繰越金	11,245	通信費	3,516
H 18 年度支部活動費	10,800	交通費	2,660
		事務用品等	1,618
		次期繰越金	14,251
合 計	22,045	合 計	22,045

④支部行事

年月日

17. 10. 02	竜鎮溪谷	田上、西村、宮崎裕子夫妻、渡辺、斎藤、泉、三宅
17. 11. 13	みたらい溪谷	西村、宮崎裕子夫妻、渡辺、斎藤、泉、三宅
17. 12. 03～04	支部忘年会 伊勢 鈴鹿	田上、西村、渡辺、斎藤、泉、向井夫妻、諸角夫妻
17. 12. 25	浄瑠璃寺	田上、西村、渡辺、斎藤、三宅、向井
18. 03. 19	北山の辺の道	田上、西村、渡辺、斎藤、向井夫妻、三宅
18. 04. 09	笠置・柳生の里	田上 西村 宮崎裕子夫妻 渡辺 斎藤 泉 向井夫妻
18. 05. 21	賤ヶ岳 余呉湖 醒ヶ井	吉野 塚原 宮崎裕子夫妻 渡辺 斎藤 泉 向井

※9期以降の支部員にも参加を呼びかけているが、昨年度の参加者はシニアとその家族会員のみ。

⑤その他

関西支部設立 40 周年記念写真集を作成。1965～2005 年までを対象に集めたが、残念ながら設立当初の写真は少なく最近の写真が大半になってしまった。CD に書き込み YWV 創立 50 周年行事の資料として提出予定。

以上

6. 会計報告 (吉野会計幹事)

2006年度一般会計決算 (2005.10.1～2006.9.30)

前期繰越	1,563,036	1,563,036
------	-----------	------------------

収入

費目	予算	実績	差額
年会費	150,000	174,000	24,000
前納会費	340,000	361,667	21,667
一般寄付金	200,000	202,000	2,000
小屋寄付金		278,842	278,842
総会参加費		0	0
山行参加費	20,000	19,900	-100
名簿郵送関連	10,000	15,000	5,000
その他収入	0	87	87
計	720,000	1,051,496	331,496

(前納会費繰延分 1,910,000/6	=	318,333
(同当年度分 260,000/6	=	43,333
(前納会費計		361,666

支出

費目	予算	実績	差額
会報作成・発行費(3回)	330,000	355,906	25,906
小屋会計振替		379,842	379,842
総会費用	10,000	0	-10,000
山行費用	30,000	28,032	-1,968
幹事会・委員会会場費	30,000	11,238	-18,762
名簿郵送費	10,000	17,997	7,997
関西支部補助	10,000	10,800	800
50周年積立金	100,000	100,000	0
その他支出(予備費)	5,000	1,130	-3,870
計	525,000	904,945	379,945

当期収支	195,000	146,551	-48,449
次期繰越	1,758,036	1,709,587	-48,449
(前納会費繰延分	658,334	798,333	
(前納会費・当年度分繰延	148,333	216,667	
(前納会費繰延・計	806,667	1,015,000	

50周年積立金明細

	収入	支出	差引残
05年度積立金	100,000		
06年度積立金	100,000		
アンケート印刷		22,727	
郵便代			
計	200,000	22,727	177,273

現預金 06.9.30現在

現金	0
振替口座	662,457
総合通帳	2,813,543
仮払金	10,000
計	3,486,000

帳簿 06.9.30現在

次期繰越	1,709,587
前納会費繰	1,015,000
50周年積立	177,273
前受金	584,140
計	3,486,000

2006OB小屋会計決算

会計期間 2005.10.1～2006.9.30

前期繰越金(2005.10.1)	1,019,715	①
------------------	-----------	---

2006年度収支計算書

収入	
OB会計より振替	379,842
預金口座利子	38
OB小屋会計収入合計	379,880

*トイレ修理代立替金返済	0	④
--------------	---	---

当期収支(②-③)	320,908
-----------	---------

<現預金>	
現金	5,000
預金	1,257,595
トイレ修理費立替	150,000
計	1,412,595

*預り金内訳	
太陽パネル代寄付立替返済(笹倉)	3,000

支出	
除雪費用	9,760
除雪作業補助	10,000
小屋整備修繕(R2005・DIY・他)	39,212
小屋地代	0
振込手数料	0
OB小屋会計支出合計	58,972

*トイレ修理代立替金	150,000	⑤
------------	---------	---

次期繰越金(06.9.30)	
現預金(①+②-③+④-⑤)	1,190,623
トイレ修理代立替金⑤-④	150,000
計	1,340,623

<帳簿>	
次期繰越金	1,340,623
未払金	68,972
預り金	3,000
計	1,412,595

*未払金内訳	
除雪費用(笹倉9,760)	9,760
除雪作業補助(伊藤、笹倉各5,000))	10,000
小屋整備(鈴木9,264、笹倉29,948)	39,212
地代(一般会計へ返金)	10,000
計	68,972

7. 会計監査 (服部監査役)

一般会計について監査した結果、特に問題がないと認める。小屋会計については後日報告の際に監査する。(後日会計報告を監査し、問題なしと認める報告を頂きました)

【承認】 以上の報告事項について、満場一致で承認された。

8. 2007 年度活動計画

① 役員会 (石川幹事長)

今年度も4回の予定で役員会を開催する予定。

② 山小屋委員会 (後藤小屋委員長)

例年通り、雪下ろし・R2007を実施する。

③ OB山行委員会 (小野OB山行委員長)

50周年記念事業に併せ、地元の丹沢や小屋に縁のある妙高周辺での記念登山を計画中。

④ 50周年準備委員会 (鈴木50周年準備委員長)

記念事業に関して、ここを正念場として確実にプランを実行していきたい。

会員みんなで心から喜び合える50周年にしたいと思っている。

⑤ 会計 (吉野会計幹事)

50周年記念事業関連で別途支出がある。100万円を限度に記念事業実行委員会で検討し使用する。

2007年度一般会計予算 (2006.10.1~2007.9.30)

	(06年度実績)	(07年度予算)
前期繰越	1,563,036	1,709,587

収入	06年度実績	07年度予算	差額
年会費	174,000	150,000	-24,000
前納会費	361,667	316,667	-45,000
一般寄付金	202,000	70,000	-132,000
小屋寄付金	278,842	150,000	-128,842
総会参加費	0	100,000	100,000
山行参加費	19,900	20,000	100
名簿郵送関連	15,000	10,000	-5,000
その他収入	87	0	-87
計	1,051,496	816,667	-234,829

(前納会費繰延分	1,600,000/6	266,667)
(同当年度分	300,000/6	50,000)
(前納会費計		316,667)

前納会費繰越分	1,015,000
収入	266,667
次期繰越	748,333

07年度前納会費予算	
入金	400,000
うち当年度	300,000
次年度以降分	100,000
当年度収入	50,000
次年度へ繰越	350,000

支出	06年度実績	07年度予算	差額
会報作成・発行費(3回)	355,906	350,000	-5,906
小屋会計振替	379,842	150,000	-229,842
総会費用	0	130,000	130,000
山行費用	28,032	30,000	1,968
幹事会・委員会会場費	11,238	30,000	18,762
名簿郵送費	17,997	10,000	-7,997
関西支部補助	10,800	10,000	-800
50周年積立金	100,000	100,000	0
その他支出(予備費)	1,130	5,000	3,870
計	904,945	815,000	-89,945
当期収支	146,551	1,667	-144,884

次期繰越	1,709,587	1,711,254	1,667
------	-----------	------------------	-------

(前納会費繰延分	798,333	748,333)
(前納会費・当年度分繰延	216,667	350,000)
(前納会費繰延・計	1,015,000	1,098,333)

次期繰越	06.9.30	07.9.30
次期繰越	1,709,587	1,711,254
前納会費繰延	1,015,000	1,098,333
50周年積立金	177,273	
前受金	584,140	
計	3,486,000	2,809,587

2007年度OB小屋会計予算

会計期間 2006.10.1～2007.9.30

前期繰越金(2006.10.1) 1,340,623 ①

2007年度収支計算書

収入	
OB会計より振替 ・小屋寄付金 預金口座利子	150,000 0
OB小屋会計収入合計	150,000 ②
*トイレ修理代立替金返済	100,000 ④

支出	
除雪作業補助 小屋整備修繕(R2007・DIY・他) 小屋地代 振込手数料	90,000 100,000 10,000 1,000
OB小屋会計支出合計	201,000 ③
*トイレ修理代立替金	150,000 ⑤

当期収支(②-③) -51,000

次期繰越金(07.9.30)	
現預金(①+②-③+④-⑤)	1,239,623
トイレ修理代立替金⑤-④	50,000
計	1,289,623

【承認】 以上活動計画について、満場一致で承認された。

9. 役員人事

□…06.10.1 新任 ■…06.10.1 再任 ☆…05.10.1 就任 ◎…04.10.1 就任(該当者なし)

会 長	嘉納秀明(1) ☆	総務委員長	覚田陽一(40) ☆
関西支部	渡辺亨英(3) ☆	副総務委員長	笠原正大(41) ☆
幹 事 長	石川 真(41) ☆	総 務 委 員	横溝真司(21) ■ 影井康弘(34) ☆ 田村顕洋(34) ☆ 渡邊隆史(36) ☆
副 幹 事 長	小野恵美子(34) ☆		
会 計 幹 事	吉野大次郎(2) ■	編集委員長	下村蓉子(10) ☆
顧 問	菅谷光雄(6) ☆ 池原盛彦(8) ☆	編 集 委 員	松本真理子(8) ☆
山行委員長	小野恵美子(34) ☆	監 査 役	榎本吉夫(12) □
関西支部幹事	斎藤貞夫(4) (任期なし)		
小屋委員長	後藤誠史(39) ☆	副小屋委員長	安藤貞利(11) □
小 屋 委 員	郡司直樹(4) ☆ 諸角壮弼(5) ☆ 菅谷光雄(6) ☆ 小口雄平(14) ☆ 鈴木道夫(14) ☆ 笹倉実(30) ☆ 安本健一(30) ☆ 田中義人(34) ■ 親跡冬樹(34) ☆ 村山浩樹(34) ☆ 志賀圭(44) ☆		
50周年記念事業 実行委員会	委 員 長: 鈴木弥栄男(9) □ 副委員長: 塩野貴之(46) □		

【承認】 以上役員人事について、満場一致で承認された。

10. 新会員の承認

46期 肥塚 愛さん 46期 佐久間大策さん 46期 塩野貴之さん

【承認】 上記3名の方が満場一致で新会員として承認された。

11. その他 (嘉納会長)

ホームページの開設について、各期のページでまだ作成できていない期がある。
また、これまでの公式山行記録の中で 1977 年から 99 年までの OB 総会の内容が不明なので、それぞれご協力をお願いしたい。

※以上で議事終了。以降歓談・集合写真撮影をして 2007 年度 OB 総会は閉会した。

OB 会役員会報告 (第 4 回)

幹事長 石川 真 (41 期)

06 年度最後となる第 4 回役員会を次の通り実施いたしました。

OB 総会についての確認や、50 周年記念事業、小屋関連の報告などが主な議題となりました。

	第 4 回 OB 会役員会
日 時	06 年 10 月 28 日
場 所	明治大学生田キャンパス
出席者	嘉納・吉野・服部・下村・安藤・横溝・小野・後藤・石川
主な議題 決定事項	<p>○ OB 総会について 当日の役割分担を確認。会食形式であるため、議事部分を極力少なくすることを確認した。</p> <p>○ 50 周年事業について 小屋を起点とした事業(記念登山・記念植樹)を実施したい。</p> <p>○ 小屋関連 土地賃貸借契約の更新にあたり、新しい契約書の内容について確認を行い、これを承認した。小屋委員により速やかに更新を行なうよう指示を行なった。なお、鈴木小屋委員をワンゲル代表として岡田氏との契約を行なう。</p>

なお、次回役員会は 1 月中旬頃開催予定です。

50 周年記念事業実行委員会から

50 周年記念事業実行委員会・委員長 鈴木弥栄男 (9 期)

会報 No.33 の“創立 50 周年記念事業に向けて”にて準備委員会からご案内ありましたように、アンケート結果を基本に作成しました記念事業計画案が 2006 年 11 月 12 日に行われた 2007 年度の OB 総会にて了承され、実行委員会が発足いたしました。

2007 年は創部以来半世紀を向かえる記念すべき年であり、過去のワンゲル活動の集大成を行い、会員皆が祝い、次の半世紀に向けて更なる発展を期待して、各種の事業を会員皆様の積極的な参加でもって推進したく、ご協力をお願いします。

“世代を超えて YWV 創立 50 周年を祝おう”

■ 第18回シニアOBの集い報告

郡司 直樹 (4期)



今年はシニアOB(1期～8期)全員が60才以上になり、本当のシニアの集いが長野県伊那谷の駒ヶ根高原にある国民宿舎「すずらん荘」で、10月14日(土)～15日(日)に過去3番目に多い61名が参加して開催された。

両日とも山行・散策コースを4組設けたので参加者がきれいに分散し、各コース晴天に恵まれて山頂からの山岳展望、錦秋の織りなす紅葉、旧中仙道宿場の風情などを堪能した。

宿舎での「シニアOBの集い」では、冒頭に6月8日逝去された八島明氏(7期)を悼んで黙祷を捧げた後に、嘉納会長挨拶で来年のYWV創立50周年記念事業計画の報告があった。

恒例の表彰式では、下記の諸氏が受賞された。(敬称略)

- ◎ シニアOBの集い10回参加賞・・・5名
泉充子(4期)、亀井昭子(5期)
古荘敏子(6期)、田中稔、松本真理子(8期)
- ◎ 月例山行50回参加賞・・・5名
岡田光豊、岡田美奈子、松本君子(6期)
松本弘道、林誠一(7期)
- ◎ 月例山行30回参加賞・・・1名
吉村元孝(3期)



スライドで見る「シニアの活動2006」(弁士：塚原月例山行会委員長)によると、今年の月例山行参加者は平均33.2名で昨年並みの成績とのこと。

*次に山行・散策各コースの概要報告を記すが、特別コースとして春・秋各1日だけ地元で公演され

る大鹿歌舞伎を、多田(2期)、佐木(8期)さんが観劇されたことを付記する。

10月14日のコース別報告

①1A 守屋山コース

岡田光豊(6期)

昨年度の月例で実施したコースでもあり、新宿からの杖突峠までのJRバスも廃止されているため、参加者が危ぶまれましたが13名の参加者がありました。当日は快晴に恵まれ暖かい日差しの中、落ち葉を踏みしめての山行でした。

キャッチコピーの「32座の百名山眺望」は、半ばと言ったところで「ウソツキ」呼ばわり寸前でした。頂上では、池原氏のアルプスホルンが周囲の山々にこだまし、他のパーティーから拍手喝さいを浴びました。



②1B 戸倉山コース

吉野大次郎(2期)

19名の参加者は、10時30分マイカーと高速バスで駒ヶ根駅に集合した。2台を駅前駐車場にデポし、5台で戸倉山キャンプ場に向かった。キャンプ場の駐車場に車を置き、11時25分出発。すぐに登りになるが、ジグザグの登山道はカラマツ、コナラ、モミジ等の落葉に覆われ柔らかくて歩き易い。登りはさすがに汗ばむが、爽やかな秋の靈気が実に気持ちよい。30分で馬止めの松、20分で上の森コース分岐、ここで昼食をとった。



このあたりから紅葉が目につき始めた。13時18分金明水着、期待した水はポタポタとほんのわずかしかで出ていない。13時40分戸倉山東峰着、生憎自慢の展望が利かず、南アルプスや中央アルプスは雲の中だったが、鮮やかな紅葉は目を楽しませてくれた。14時山頂発、15時20分登山口帰着、標高差600mを4時間で往復、全員登頂の快適な登山であった。

③1C 千畳敷散策コース

小林秀臣(7期)

橋本明美(7期)

しらび平駅で30分程の待ち時間の後、急勾配のケーブルに乗り、緑の中に点在する紅葉をめでながらついた日本一高い？ケーブル駅千畳敷は、生憎の霧の中。少し下ったところで食事をしながら晴れるのを待つことに。終わって記念撮影をし、カールの底を散策しながら再びケーブルの駅を目指している途中で時々ガスが途切れ、上の方が見える。

夜の部の準備のために先に下山してくださる方に、帰りのケーブルの整理券の確保をお願いして、6人が極楽平を目指して登り始めたけれど足元はごろごろ。急な登りに、“これって散

策なの？”と思いつつ必死に前について登る。時々下りてくる人を待つ間だけが息を整える時間。非情なリーダーは、もうあと少しと言いつつ登り続ける。

久し振りに登るせいか、高度のせいか、ガスのせいか、はたまた足元が悪いためか、ひたすら足元を見ていて、途中のことは、頭に残っていない。40分の後に、極楽平着。なんと上は良い天気！



途中の苦しかった分、もし夏場でお花でも咲いていたらここはまさしく極楽かも。

一服して、島田娘の頭、そして先ほど下から眺めた宝剣を極め、間近に見るところまでの尾根歩き。ホシガラスが何羽も見えてなんと気持ちにいいこと。

宝剣からきた外人さんともコミュニケーション。あー登れて良かった!!

下りてきたら先に下山した組をお願いしていたケーブルカーの整理券は石の下に隠されていたものの、その番号は既に出発済み。結局一時間以上待ったけれど登ってこられたから大満足。

一緒に待っていた観光バスのお客さんは、ガスだけ見てのお帰りだったようで不平たらたら。ちょっぴり自慢でした。

④1D 中山道散策コース

齋藤貞夫 (4期)

10時、JR中津川駅集合。メンバー5名は、塚原(2期)、渡辺(3期)、原(4期)、泉(4期)、齋藤(4期)で東京、兵庫、神奈川、大阪、三重からと5人とも異なる県からの珍しいチーム編成で新幹線、マイカーで集まりました。



天候にも恵まれ、馬籠宿へドライブ。江戸時代の街道の面影をとどめる宿場の石畳の坂道の両側に並んだ旅籠、みやげ物屋、お茶屋などを覗き、島崎藤村記念館の見学後、坂を登りつめて馬籠宿を俯瞰する展望台へ。

恵那山はガスで霞んでいました。中山道は峠が多く参勤交代の行列、街道を行き交う姫様の苦労が偲ばれます。地域の名産栗おこわ飯で昼食。車で馬籠峠を越えて小説宮本武蔵にもでてくるイオンシャワーたっぷりの男滝、女滝で休憩。清内路峠を越して木曾谷から伊那谷へ。昼神温泉を横目でみて飯田元善光寺へ。善光寺は長野、甲府にもあるが飯田が本家。参拝後、暗闇の戒壇をとおり、中央高速にて駒ヶ根高原の宿舎 15時30分着。

小人数でしたが天候にも恵まれ和気あいあいで楽しい一日を過ごせました。

⑤2A 御嶽山コース

腰塚典明(3期)

参加人員は12名。2期と5期を除く精鋭メンバー。宿舎からマイカー4台で、今年春開通した権兵衛トンネルを通り、田の原(標高:2180m;登山口)まで約2時間のドライブ。途中、御岳湖の湖面や御嶽山の荒れた山肌の眺めがすばらしい。さらには御岳高原、八海山付近の紅(黄)葉が見頃で、快適なドライブであった。登山口からは、王滝、剣が峰まではっきり見渡せた。9時半すぎ、石の大鳥居をくぐり、やや平坦な広い砂利道をお江権現まで、そこから少し登りとなり、「あかつげ」、さらに森林限界を超えて金剛童子につく。そこから、中央ア、南アの山並みを背にして、溶岩が多い急な道をゆっくりと登る。八合目石室を過ぎ、富士見石付近で、中央アの後ろに富士山がかすかに顔を出す。ちよろちよろと水が滴る一口水、九合目とたどる急登を喘ぎながら、王滝頂上に12時すぎに着く。剣が峰の斜面には前週に降った残雪が残っていた。さらにガレた道を頂上小屋へ。頂上小屋からの最後の石段がきつく、手摺をつかみながら御嶽神社(12時40分着)へ。剣が峰頂上(3067m)へは11名。1名は少し遅れ王滝頂上までとなった。剣が峰の頂上には、日陰に雪が残り、座していると体がどんどん冷えてくる。一年に何回もない(?)という好天で、乗鞍付近に多少雲があるものの、白山、北~中央~南ア、さらには富士と360度の大展望を楽しみながら、コンビニ弁当で昼食。13時10分頂上発。もと来た道を、登りとはまた違った気分で展望を楽しみながら下る。田の原には15時15分着。一日中、展望にめぐまれた山行で、歩行時間は5時間。登りは多少きつめ。体調不良による遅れと、下りでの転倒による怪我があったが大事に至らず全員満足して下山できた。田の原から道の駅三岳までドライブ、そこで16時半解散。



⑥2B 木曾駒ヶ岳コース

谷上俊三(4期)

一年の中でもめったに見られないような快晴がわれわれを迎えてくれた。紅葉のトップシーズンであり天気もよい日曜日ということで、想像もつかない混雑を覚悟したが、出かけたのが早くて混雑する前に千畳敷に登ってしまったことと、メンバーが健脚でリーダーに良く協力して予定のコースタイム通りに歩いてくれたため、下りのロープウェーも混雑する前に乗ることができ、14時過ぎには全員帰途につけたという、全てが順調な木曾駒ヶ岳登山だった。

2C 千畳敷散策のチームと一緒に千畳敷に登り、全員で記念撮影したあと2Cチームと分かれて2Bチーム15名は8:30に木曾駒ヶ岳へ向けて登り始めた。八ヶ岳、南アルプス、富士山の大パノラマを背にして暑いくらい



の日差しの中を急な岩場の道を登ること約一時間、宝剣山荘にたどりついた。3000m級の尾根に出たため快晴とはいえ肌を刺すような冷たい強風が突然襲ってきた。用意してきたキルティング、手袋などの防寒具で身支度し、中岳經由木曾駒ヶ岳（2596m）の山頂をめざす。

10:25 から 20 分位の僅かな時間だが木曾駒ヶ岳山頂にて、雲一つない澄み切った青空の下に 360 度展開している周囲の山々の眺望を思う存分堪能して、登ってきた道を下山の途についた。メンバー全員大満足の日だった。

⑥2C 千畳敷カール散策コース

齋藤貞夫（4 期）

参加メンバー渡辺一、塚原、齋藤彦（2 期）、渡辺亨、金田、森井、諸節（3 期）、齋藤貞（4 期）、三宅、諸角夫妻（5 期）、綾部、池原、早坂富（8 期）、下村（10 期）

木曾駒登山グループと同じバス、ロープウェーにて 9 時に千畳敷カールに到着。びっくりするほどの秋の青空の中、ロープウェーからは紅葉した樹木と水量はやや足りないとはいえ見事な多段の滝に圧倒されてみな感激。千畳敷に到着して眼前の宝剣岳の姿にも感激。木曾駒グループと別れ、1 時間 30 分の自由散策。極楽平へ登る者、散策路を回り剣池で持参のホルンを吹く人、ホテルでコーヒ



ーを楽しむ人、みな滅多に味わえない素晴らしい展望を経験しました。南ア駒ヶ岳～光、八ヶ岳、富士山、奥秩父まで見えました。10 時 30 分に下山開始。萱の台にて帰路を急ぐ人が解散。

一部の人々は駒ヶ根散策に出かけ、駒ヶ根名物のソーストンカツを食べて、光前寺を参拝し帰路につきました。

⑥2D 水木沢天然林・奈良井宿散策コース

小木曾克彦（7 期）

一番最後にすずらん荘を出発した総勢 13 名（男 5 名、女 7 名）は、開創が 860 年で樹齢 800 年を越える杉などの巨木が林立する光善寺の散策から始めた。四季様々な花が咲き乱れる広大な庭園と共に光苔でも有名な寺であるが、光苔は 4 月から 8 月ころまでが最盛期で、残念ながら光っていなかったようである。その後、車で今年 2 月開通した権兵衛峠のトンネルを通過して木曾谷へと向かった。木曾節の中に歌われているように、米が採れない木曾へ伊那から運べるように切り開いたのがこの権兵衛街道だという。

なだらかな直線の登り道を進むと、真新しい権兵衛トンネルに差し掛かる。中央アルプスを横断するだけあって 3 本で繋がっているトンネルはかなり長い。紅葉にはまだ早く、所々色づいている程度であった。あっという間に木曾谷に入り込み、蕨原宿手前で国道 19 号線から水木沢天然林のある木祖村へと進むと、上高地へ 56Km との表示がでてきた。一瞬、予定変更してこのまま上高地へ行こうかとの声が出たほどである。

水木沢天然林はなんとこのコースリーダー名の付いた“小木曾国有林”のなかにある事を案内板で知りどっと沸いた。

まずは管理棟で熊避けの鈴を借り、森林インストラクターを目指す服部さんが、この日のために用意したカラー資料を全員に配布し、木曽五木であるところのヒノキ、サワラ、ネズコ、アスナロ、マキの見分け方を教えてくれた。水木沢天然林は、低差が僅か120mで小一時間もあれば回れる。中でも樹齢550年、直径2.5mの天然サワラの巨木や、苔むす澄んだせせらぎの中の散策は、我々以外誰もいなかったことも相まって、静寂に包まれた森林浴をたっぷり満喫することができた。水木沢天然林を後にして、一路木曽谷最大の宿場街、奈良井へと向かい、予約してあった旧本陣の徳利屋へ行き、この地域名物の五平餅と蕎麦の昼食に舌鼓を打った。その後は街並みのお土産屋を覗く人、中央道の混雑を避けるべく早々と帰宅する人に分かれ、自由解散となった。

水木沢天然林内でたまたま撮った写真を見て分かるように、今回のこのコースは、まだまだ元気なYWV・OBの何年後かを想像させるもので、こんな山歩きも良いものだなー、との声も聞こえ、ゆったりとした自然満喫の一日でした。



OB山行報告（第17回瑞牆山・第18回矢倉岳）

OB山行委員長 小野恵美子（34期）

第17回 OB山行 瑞牆山

〔日程〕2006年9月9日（土）

〔参加者〕吉野[2]、谷上[4]、井上[7]、安藤[11]、小口[14]、狩野[14]、永石(狩野友人)、笹倉[30]、小野[34]（計9名・敬称略・[]内数字は期）

9月9日蕪崎駅9時集合。瑞牆山山行には9人のメンバーが集まりました。この日は9がラッキーナンバーです。天気は良く、暑すぎず清々しい一日でした。マイカーに分乗して瑞牆山荘前へ。ドライバーの皆さんは車を下山地まで置きに行ったため、他のメンバーは一足先に10時前に歩き始めました。朝の爽やかな山道をのんびり歩いて富士見平小屋前で休憩をとると、まもなく後発組が追いつきました。ここからは揃って出発。少し下って天鳥川を渡ったところでまた休憩。まずここで大きな岩との出会いがあります。岩の横の階段を上ると、その先は急登が続きます。シャクナゲの木がたくさんあり、花の時期はきれいだろうなあと想像しながら歩きました。大ヤスリ岩、トサカ岩と呼ばれる巨大な岩が頭上に現れると、そこからは巨岩・奇岩のオンパレードです。思わず口をあぐりと開けて見上げてしまいました。どうして山のこんなに高いところにあんなに大きな岩がたくさん乗っかって落ちないのでしょうか。妙な隙間があったり変に水平な面があったり今にも落ちそうだったり。わくわくしながら歩きました。

12時20分過ぎに山頂に到着。岩だらけの頂で、高山の雰囲気です。雲が多く霞んでいて、残念ながら展望はあまりありませんでした。すぐ近くの金峰山もほとんど見られませんでした。

が、お隣の小川山が瑞牆山と対照的な緑におおわれた丸い山容を見せていました。

岩の上でのんびりと昼食と記念写真をとった後、下山路へ。北側の不動沢に下りていく道を行いました。林の急坂を過ぎるとややなだらかになり、そこからは岩と木と水が楽しめる変化に富んだ良いコースでした。弁天岩、夫婦岩など名前のついている岩がいくつもあり、名前をつきたい岩もいくつもありました。奇岩好きな人(?)にはたまらないコースです。岩の上に木が茂っているところもあり、岩と木々が同じ空間に溶け合っている感じが私は好きでした。きれいな沢で長い休憩をとり、みんなで冷たく澄んだ水に手を入れて、癒しのひとときを過ごしました。灰色の巨大な岩肌を水が流れ落ちてくる不動滝もなかなかの迫力でした。新しい木橋をいくつも渡って下山地の林道終点に到着。増富温泉にゆっくり浸かり、産地の野菜と林檎をお土産に買って帰路につきました。



瑞牆山は眺めて美しい山、登って楽しい山。百名山に選ばれているのもうなずけます。充実した良い山行でした。

第18回 OB山行 矢倉岳

〔日程〕2006年12月2日(土)

〔参加者〕吉野[2]、谷上[4]、古宮[7]、松本[7]、下村[10]、山本[10]、安藤[11]、榎本[12]、小口[14]、小浜[17]、小野[34] (計11名・敬称略・[]内数字は期)



暖かな冬晴れの下、足柄の矢倉岳に登ってきました。新松田駅に元気に10名が集合。揃って9時発のバスに乗り込みました。登山口の矢倉沢でバイクでいらした榎本さんと合流。

開会式を行い、早速歩き始めました。

なぜか雨の思い出が多いOB山行ですが、この日は文句なしの最高の登山日和でした。

見上げる山々の紅葉が美しく、足取りも軽くなります。この季節なら

ではのやわらかい日光とすっきりした青空は、色とりどりの紅葉によく似合います。みかん畑や小さな神社の横を通り、登山道に入っていました。標高870mの矢倉岳はこんもりとしたかわいい山ですが、登りはかなり急傾斜でいい汗をかきました。足元で落ち葉がカサコソと楽しい音をたて、見上げると日をあびた紅葉が美しいグラデーションを見せてくれました。2回の休憩をとり、11時25分に山頂に着きました。眼前には大きな富士山が。少し雲がかかっていましたが、雪をかぶった美しい富士山でした。箱根方面はやや霞んでいましたが、金時山

や明神ヶ岳等なじみの山が並んでいます。

1時間半程の登りでこの景色が見られるのは、得した気持ちになります。広い山頂には多くの方がいました。私達も景色を楽しみながらお昼ご飯を食べました。谷上カメラマンのシャッターで恒例の集合写真撮影をして頂を後にしました。下山路は檜林が続きます。「昼なお暗き」しっとりとした道で、登りとはまた違った趣でした。1時間程下ると足柄万葉公園に入りました。万葉集の中から足柄にまつわるものや木の名前が入った歌があちこちに書かれていて、読みながら歩きました。「これはなかなか色っぽい」(恋の歌が多くありました)、「これはひねりが無い」等々、好き勝手に鑑賞し、時間をかけて楽しみました。思いを言葉にするのは素敵なことですね。昔の人は今よりもずっと感性が豊かだったのだな、と改めて感じました。

足柄峠まで足を延ばし、関所跡でさらに昔日に思いを馳せました。年譜によると足柄の歴史は日本武尊にまで遡り、数々の歴史上の人物がこの峠を越えているのでした。

そんな重みとロマンを感じながら足柄古道を下っていきました。地蔵堂のバス停では2時30分発のバスが停まっており、ちょうど良く全員飛び乗りました。歩程3時間40分のコースでしたが、中身の濃い充実した山行になりました。

帰り道、万葉集にちなんで私も一首詠んでみました。

足柄の紅葉愛でつつ 古の心に触れる今日の幸せ

(掛けことばも含みありません。お粗末。)

■ 2007年OB山行予定

OB山行委員長 小野恵美子(34期)

今後のOB山行の予定をお知らせします。コース等詳細はまだ決まっておきませんが、日程は以下のとおりです。YWV創立50周年記念として、OB山行も多くの皆様にご参加いただき、一緒にお祝いし思い出を語る機会になればと思っています。ぜひスケジュールをあけていただき、皆様お誘い合わせのうえご参加ください。詳細は今後の会報またはメールで追ってお知らせいたします。どうぞよろしくお祈りいたします。

●第19回 50周年記念山行 丹沢山系

〔日程〕 2007年5月12日(土)～13日(日)

〔内容〕 丹沢山系のうち日帰りコースを登山。その後周辺の温泉地で1泊。親睦会を行う。
※YWVのホームグラウンド丹沢で、学生時代の新錬山行や追いコンの思い出を語り合ひましょう。

●第20回 50周年記念山行 苗名小屋周辺

〔日程〕 2007年10月12日(金)～13日(土)～14日(日)

〔内容〕 苗名小屋で記念植樹祭や懇親会を行う。
妙高山、火打山、笹ヶ峰散策など数コース設定し、それぞれ希望参加とする。50周年記念事業実行委員会、山小屋委員会と共同で実施予定。
※YWVの心のふるさと妙高で、50周年を共に祝いましょう。
期間中、日帰りでも1泊でもご都合の良いときにご参加いただければと思います。

■ 期別便り（46期）

46期は4名いますが、今回は2名の近況を報告します。

塩野貴之

今年（2006年）の3月に学部とワングルは卒業しましたが、現在も学部時と同じ研究室にあり、修士課程1年生として植物生態学・自然公園管理学の研究に励んでおります。

ワングルの3年間では二度の日本横断登山を含め、年間100日以上も山に籠っていましたが、学部4年生時には「丹沢山地における登山道の環境影響評価」と題した卒論を書くため、丹沢全域の登山道およそ250kmを対象に、登山道と植生・地形・地質等の詳細な調査を行ない、また丹沢の山中に籠っていました。これは、1km進むのに2時間以上かけるという気の長い調査でした。

そして今は、北岳、上河内岳、白馬岳、双六岳、多摩川、相模川、湘南海岸、九十九里浜などを調査地とし、表層砂礫の大きさを片端からノギスで計るという、これまた気の長い生態学的研究を行なっています。

その他にも研究室の人とともに、西表島やミクロネシア、八甲田などにも調査の手伝いに行き、ワングル時代とは違った形で日本各地を飛び回り、楽しんでおります。

そろそろ雪山道具を出して、趣味として雪山に行こうと計画を思い巡らしているこの頃です。

肥塚 愛

NYの片田舎・Syracuseからこんにちは。

46期の肥塚愛です。現在Maxwell Schoolで国際関係学・経済学の大学院生をしておるわけですが、留学生活はまるで修道院生活のよう。マジで何も語ることがありません!! 朝起きて、20秒後にコーヒー入れて、2分後には本や論文を開き、時に気絶し、また本を開き、本と一緒にベットに入る。都市に住んでいるわけでもないのに、何のエンターテインメントも無く、酒も夜遊びも衝動買いも



カフェも外食もない、禁欲的な生活を送っております。偏頭痛と全身蕁麻疹が出るくらい勉強漬け!?

そんな中、かなりの料理好き、かつ、料理上手の私にとって、「料理と食事」は留学中の最大の楽しみ。和・洋・中はもちろん、イスラミック・アジア・アフリカンまで、何でも作れるので、週末は食卓が豊かです。今年はアメリカの感謝祭と日本の感謝祭の日程がかぶりましたよね。何と、Thanksgivingには、10kg以上の巨大なターキーを購入してきてさばいてしまいました。その様子の写真を皆さんに披露致します。

そんな私ですが、登山もまだまだ続ける気です。出国前半年はまさに「アホみたいに」山に登って岩に張り付いていました。まさに富山・長野に住んで、東京に登山道具の整備と顔見せのために出張してきています、というような生活でした。今年の冬も一時帰国をして4本は山に行きます!! あ、「冬山をやるために」帰国するんじゃないからね、ちなみに。

そこまでアホじゃありません!! でもすごく楽しみです。最近、山行計画を立てるという、勉強以外にやることができてささやかな幸せを感じています。

自由投稿（東北山紀行）

谷上俊三（4期）

仕事を離れて自由な時間ができたら、一人で車に寝泊りしてハンドルの向くままの気の向くままの気楽な旅をしたいという思いをずっと以前から持っていた。幸か不幸かそのような環境が、今年になって現実のものとなった。仕事が完全になくなり、いつでも自由に時間がとれる境遇になったわけだ。おまけに山を歩くことが大好きな私に対し、都会を歩くことが大好きな女房とは出歩く先が異なるため、おのずと一人で行動することになる。今回の「東北山紀行」は今年の春ごろから考え出したが、具体的計画をたてはじめたのは6月になってからで、それこそ気楽な旅の始まりだった。

今回編集委員からOB会報への寄稿を依頼され、今これを書いているが、私がどこへ行ってどうだったかなどという話は他人が聞いたところで面白くもないだろうし、山の様子ならガイドブックを見たほうがよっぽど参考になると思い、今回は私と同じように車で一人旅をした人が結構いるのではないかと、これから計画しようとしている方々に参考になるようなことを書こうと思う。

ただ私より前に郡司さんの四国順礼での自転車一人旅があり、北見さんご夫婦は東北や北海道や今年は九州で車寝泊りの気まま旅をされており、大先輩二人を差し置いていまさら私がというところであるが、編集委員から強く依頼されたので多くの紙面を使わせていただいたことをお許し願いたい。

まず行き先として東北から北海道を一ヶ月くらいかけて回ろうかと考えたが、初めての一人旅なので今年は東北だけ約半月間ということにした。さてどこをどう回ろうか。海も見たい、山も登りたい、お花も見たいとやりたいことばかり。たまたま手元に「花の百名山・登山ガイド」なるものがあり、そうだ花を見ながらの山紀行にしようということにした。今年は梅雨明けが遅いようなので、花の時期にはちょっと遅くなるが出発は7月末。車に寝泊りだから宿を手配する心配はいらない。

次に居住となる車の整備をはじめ。私の車 RAV4 は室内がちょっと小さいが後ろの座席が脱着式でかなりのフラットな空間ができる。そこに生活空間を設定した。詳細は省略するので写真を参考にもらいたい。携帯品はバケツ、洗面器、食器、コッヘル、ガスバーナー（コンロ）な



どなど、計画書、地図、ノートなどの文具、ノートパソコン、カメラ2台、目覚し時計などなど、靴3足、下着10着、Tシャツ、短パンなどの衣類、まな板、ナイフ、洗剤などの炊事用具、細かいところでは爪切り、はさみなど。私にとっては必需品の内服薬や外科用医薬品。食料は途中調達の予定だが、お茶、コーヒー、

非常食のカップ麺と缶ビールは積み込む。途中でビーチサンダルと蚊取り線香を購入した。今回最も重宝したのが折りたたみ式チェアだった。車から降りて一休み、食事、靴の履き替えなどこれほど重宝したものはない。



車に寝泊りで気の向くままの気楽な旅といっても、どこをどのように回り、どの山に登るかの基本的な計画は立てた。すべて車の中というのも不安があり数日に一回は屋根の下で十分体を伸ばして寝たい。8月5日(土)に郡司さんが栗駒山に登るというので、私もその日に合わせて栗駒山へ登ろう。網張温泉でペンションをやっている友人のところへ泊めてもらう約束がある。帰り道には仙台の永田様の家に寄ろう。などの若干の制約に、行った事のない会津若松、平泉、恐山、一年の夏合宿で行き40余年振りでも再び行ってみたい男鹿半島などを取り込んでコースと日程をきめた。

山は基本的に登山口に泊まり、早朝登り始めて昼過ぎには下山してその日のうちに次の山の登山口まで行けるような計画にし、会津駒ヶ岳、蔵王、月山、栗駒山、鳥海山、秋田駒ヶ岳、八幡平、岩木山、八甲田山、早池峰山の10山を選択した。岩手山は行程が長く下山が遅くなるので自ずと除外された。

ついに出発の日7月31日が来た。折りしも関東地方はやっと梅雨明けし晴天。午後期待と不安を乗せて愛車RAV4で家を出た。特別な別れもなく普段買い物にでも行くように。

8月1日(火) 会津駒ヶ岳 : 雨

今年で連続3回目、去年と同じく雨の中の登山となる。ハクサンコザクラはまさに最盛期、ピンクの絨毯が雨に濡れてしょんぼり。

8月2日(水) 裏磐梯小国沼 : 快晴

東北地方がやっと梅雨明け。真夏の太陽が焼けるように照り付ける。花の季節も終わり、訪れる人もなく静かで雄大なパノラマを独り占め。木道横のベンチで昼寝。

8月3日(木) 南蔵王・蔵王 : 快晴

日の出前に刈田峠を出て南蔵王・屏風岳へ向かう。朝露をたっぷり含んだ笹を掻き分けて歩いたのでズボンはもちろん靴の中までびしょ濡れ。朝露に濡れた真っ白なウスユキソウの群落がなんとも美しい。続いて北蔵王の主峰熊の岳へ登りなおす。足元深く、刻々と水の色を変化させるお釜を見ながら、真夏の太陽を背にコマクサの咲くガレ場を登って熊の岳へ。

8月4日(金)月山:晴

山頂はガス。花も豊富、雪も豊富で美しい山だ。

8月5日(土)栗駒山:晴

山頂はガスで強風。いわかがみ平を6:00に出て中央コースを登る。途中からガスの中へ突入し頂上は下の晴天とは打って変わって濃い霧と強風で寒いくらい。下りは東栗駒コース、東栗駒岳まで下ればガスから抜け出し展望良好。いわかがみ平で10:10着のバスで到着の郡司さんと斉藤さんを迎え感激の対面。記念撮影後栗駒山へ登ってゆく二人を見送ってから、私はゆっくりと昼食・洗濯をして温泉で疲れを癒し、今日のねぐら予定の道の駅「厳美溪」へ下った。



郡司さんをお迎え(栗駒山)

8月6日(日)平泉(中尊寺・毛越寺):快晴

早朝の静かな中尊寺と「夏草や兵どもが夢の跡」の句を読んだ芭蕉ゆかりの毛越寺を廻る。両寺とも初めての訪問で感慨一入だ。

8月7日(月)鳥海山:快晴

昨日滝の小屋へ入るところで、鳥海山から下りて来た岡田夫妻と松本君子さんの3人のパーティーとばったり感激の対面。今日はその滝の小屋を4:30に出て一人鳥海山をめざす。天気は雲一つない晴天。七高山、新山と征服後広大な雪渓を一気に下り、13:00に滝の小屋へ無事帰還した。途中の道は登り下りとも一面のお花畑が続き、まさにメルヘンの世界をさまよった。夜



岡田夫妻・松本嬢とばったり(鳥海山)

は男鹿半島の予定だったが途中「道の駅・象潟」に寄ったら、温泉があり食堂もあるので急遽今夜の宿に決めた。日本海に沈み行く夕陽を眺めながら温泉につかり、ゆっくりビールを飲みながらの夕食は今日のすばらしかった鳥海山と合わせてこの旅の中で最も至福の時だった。

8月8日(火)男鹿半島:快晴

海水浴場で洗濯と昼寝でのんびり。

8月9日(水)秋田駒ヶ岳:快晴

すごく花の多い美しい山。片倉岳、阿弥陀池、男女岳、男岳、駒池、横尾根、横岳、八合目と一周した。駒池周辺のお花畑、横尾根周辺一面見渡す限りのコマクサ畑はまさに圧巻だった。下山後網張で頑張っている友人のペンション「だもん」に寄り、久しぶりに会って夜遅くまで楽しい酒を飲み交わした。



網張のペンションにて

8月10日(木)八幡平:晴

今日も天気が良い。40余年ぶりに来た八幡平。大学一年の夏合宿でこの一帯(八幡平、八甲田山、酸ヶ湯)をまわったことがあり懐かしい。

8月11日(金)岩木山:晴

有料道路の開門が8時。それまで岩木神社にお参りしたり洗濯したり。駐車場からリフトに乗ればすぐ頂上だが、それではあまりにも面白くない、リフトのすぐ横をひたすら登る。車・リフト乗り継ぎで手軽に頂上にゆけるため頂上は遊園地状態、興奮めだ。固有種のミチノクコザクラを求めて岩木神社方面へ20分ほど下りみごとゲット。



8月12日(土)八甲田山:晴

昨夜酸ヶ湯の千人風呂で癒した体に鞭打って5時から登りはじめる。土曜日というのに登山者はまばら、非常に静かな山だった。

8月13日(日)恐山:曇り

昨日のうちに菓研温泉の民宿に入った。この旅で4泊目の宿だ。下北半島は一度行ってみたかった処女地だった。恐山はまさしく荘厳な霊場だ。

8月14日(月)早池峰山:快晴

今回の山旅の最後を祝福してくれるように、今日も快晴が迎えてくれた。河原坊を5時すぎに出て登りにつく。想像以上にガレた岩だらけの急斜面。固有種ハヤチネウスユキソウや色とりどりの花に癒されながら8時に頂上に到着。残念ながら周囲はモヤッていて眺望はきかない。下りは小田越へのルートを取り10:30河原坊に無事到着。



最後の山を登り終え、これで今回の「東北山紀行」を予定通り全行程無事終了した。

8月15日(火)仙台(永田宅へ寄って伊勢原へ帰宅):晴

夏休みで賑わう三陸海岸を南下し仙台に入った。青葉城に寄ってから永田さんのお宅にお邪魔し、花の名前を教えていただいたうえ昼食をご馳走になり帰りの途に着いた。



私の今回の「東北山紀行」は、結構欲張った大冒険のような旅だったが、予定通り全行程を無事敢行することができた。天候と健康に守られて、終わってみれば楽しい旅だった。 「完」

■ 自由投稿（クラシックギターコンサート）

「悠友遊」サロン・コンサート

日渡松男（9期）

去る7月30日に八ヶ岳山麓甲斐大泉の「サンユウ大泉荘」で、9期の上原夫妻主催による日渡奈那のクラシックギターコンサートが開催されました。

演奏の前には松本・上原師弟による手打ち蕎麦が振舞われ、休憩時には梶野さんご主人の尺八も演奏され非常に盛り上がりました。



宮崎(2期)、小林夫妻(7期)、松本夫妻(7・8期)
梶野夫妻(9期)、馬場(9期)、鷺宮夫妻(11期)、
上原夫妻(9期)、日渡夫妻(9期)

当日は2期の宮崎さん、7期の小林夫妻、松本夫妻、9期の梶野夫妻、上原夫妻、日渡夫妻、馬場さん、11期の鷺谷夫妻と総勢14名の聴衆を迎え大盛況でした。

演奏会の様子はDVDで録画され、山荘で見られます。

（山の歌を皆で歌いました）
娘の日渡奈那は、現在スイスを中心に活動中ですが、親としては遠く離れて何かと心配も絶えません。

演奏会が日本で開催される際には、お聴き頂ければ幸いです。山好きなワングルの皆さん、アルプスの山々を楽しみにスイスにも是非お出かけ下さい。

■ 近況報告（総会参加葉書より）

総務委員（名簿係）渡邊隆史（36期）

佐藤 文雄（1期） NPO法人YNUスポーツアカデミー（YNUS）に参加できるかどうか議題で取り上げて下さい。YNUS（横浜国大スポーツアカデミー）はご存知と思いますがホームページをご覧ください。YNUSホームページ <http://www.ynus.jp>

田上 栄一（1期） 近くの山を歩いています。関西のYWVOB会のハイキングに参加しています。

江崎 伴雄（3期） 前から知的活動をしたいと考えていたので大学院の研究生になりました。（横浜国大 環境情報学府）

- 栗田武寿郎（3期）私の場合、家内の体調がよくありませんが、皆様いかがでしょうか。ご健勝をお祈り致します。
- 平林 茂（3期）「明るく、楽しく、元気よく」を合言葉に毎日忙しく「政治ボランティア」に励んでいます。秘湯温泉旅行へなかなか行けないのが少し残念ですが、日本の誇り、憲法9条を守るYWVOBの会みたいなののでできるとうれいいですね。
- 高田 良子（4期）膝を少々痛めておりますが、日常生活及び仕事にがんばっております。皆様の御活躍・御健勝お祈り申し上げます。
- 時田 澄男（5期）60才までに百名山完登という目標はどうやら達成できたので、現在はピークハントの欲も消え、悠悠登山を楽しんでいます。今夏は八幡平から網張温泉まで縦走しました。1日3～4時間、しかも高低差の少ない展望と花が楽しめる山旅でした。仕事の方は来年3月に定年を迎える予定です。
- 鈴木 浩（6期）2006.4.30をもって退職し現在無職です。社会福祉協議会での運転ボランティアをさせて頂いており月何回かの活動があります。それ以外は勝手気ままな毎日です。
- 菅谷 光雄（6期）只今、人生4回目の長期入院中です。入った年代によって考えたりすることが変わってきますね。良いことばかりではありません。式次第などを考える余裕が出てくるのはいつごろのことになるでしょう。
- 鈴木 博子（7期）今年5月より母の全介護で毎日をおくっています。ほとんど家から出ない半年がすぎ、少しよくなってきているかと気持ちを明るくするようになってきました。YWVの皆様のご活躍の様子、またいろいろのこと耳にしたりしていますが、どうかご健康に留意されて楽しく過ごされますように。
- 武藤 直子（8期）2006年3月31日に無事教職を定年退職致しました。今は全くフリーで自由な時間を謳歌しております。2～3年前から国内の温泉地と山を結んだ旅行を月1回ほどの割合で夫と楽しんでおります。今夏はアメリカサンディエゴで研究生活を送っている娘の所へ15日間行ってきました。ヨセミテ国立公園で2つのトレイルに挑戦しました。
- 綾部 和子（8期）5月の末に白内障の手術をしました(両目)が、裸眼で0.02の強度近視も解消し、コンタクトなしの楽な生活になりました。おかげで山歩きでは高山植物がよく見えるようになり楽しみがさらにふくらみました。家庭の都合で、なかなか山に行けません、"いい眼"で歩ける幸せを大切にしたいと思います。
- 高橋 弓子（8期）紅葉の頃となり、山々が華やぎますね。低山歩きを楽しみたいです。
- 原 智恵子（10期）H18年3月31日に退職して、少しのんびりしています。
- 鈴木 道夫（14期）小屋委員として、屋根の葺替え、トイレ工事、雪下しなどOBの協力を得て進めてきました。小屋の維持は大切なのですが、維持が目的になってしまったようで、OBの皆さんに申し訳ない気持ちです。小屋を利用した催しを小屋委員としては企画したいです。心密かにアイデアはあるのですが…
- 上野 節子（14期）介護問題で余裕のない毎日を過ごす立場になってしまいました。OB会の活動に少しも協力できなくて申し訳ありません。落ち着いたら、またOB山行等に参加させていただきたいと思っています。
- 西浦 章予（15期）今年学校を変わり5年生の担任…楽しいけれど超忙しい！みなさまにお会いしたい、山に登りたいという思いがふくらんでいますが一以前にも増して忙しい日々を送っております。教育現場も年々厳しく忙しくなっています—教育基

本法の改悪始め、教育改革の名のもとに公教育がハカイされようとしています。

- 山下 暁 (17 期) この 3 月に屋久島の宮之浦岳に登りました。淀川小屋からのピストンでしたが、とても感激しました。
- 浜田 淳 (18 期) 卒業後 30 年弱となりましたが、YWV の諸兄姉にはずっとお付き合いいただいて、有難いと存じます。
- 海野 和明 (19 期) 50 才の峠を越えて、人生上の色々な出来事に遭遇しております。父の死亡、3 人の子供の大学の入学卒業など。あとしばらくは、ハイキングの時間もみつけれない様子です。
- 笛木 久栄 (19 期) 昨年、台風であきらめた蝶ヶ岳に今年は登ることができました。燕～常念～蝶と久しぶりの縦走。燕山荘で心配していた台風もそれてくれて快晴の 3 泊 4 日。花畑に雷鳥の親子、そして蝶ヶ岳山頂で見た日の出、日の入。とても幸せな時間でした。
- 小松 真弓 (19 期) いつもなつかしく会報を読ませていただいております。諸先輩方のゆとりある様子、うらやましい限りです。私、昨年着任早々 6 年担任、そして今年は 5 年担任…11/11 には研究発表を控えています。年々ハードになり、山からも足が遠のいております。50 周年記念の催し、参加したいです。
- 寺島 一希 (22 期) 元気にやっております。
- 藤森 朝詩 (30 期) アメリカでの仕事の合間に Back country に入ることを楽しみにしています。
- 藤森 潤子 (32 期) 今年の夏は子連れでも行きやすい立山に行って来ました。久しぶりの高山での 3 泊、満天の星に高山植物…とても楽しかったです。
- 田村 颯洋 (34 期) 昨年 12 月に子供が産まれて、父親業の喜びを味わう毎日です。たまに、子供を背負子に乗せて簡単なハイキングを楽しんでいます。
- 土方 康裕 (35 期) 多忙な日々ですが、何とかやっております。
- 塩野 貴之 (46 期) 大学に残り、研究を続けております。

■ 現役部員の近況報告（大学祭を訪ねて）

編集委員長 下村 蓉子 (10 期)

06 年 11 月 5 日、常盤祭で賑わう母校に、ワンゲルの名物カレー屋「妙高」を訪ねました。懐かしいカレーをいただきながら現役の活動状況取材しました。

YWV は、現在安田部長を中心に 11 名の部員で活動をしています。

1 年生は石倉さん、高岩さん、御園さんの 3 名。2 年生が西元さん、小林さん、岸本さんの 3 名、3 年生が安田さん、島田さん、村田さんの 3 名、4 年生が井上さんと小原さんの 2 名です。そのうち女子は 3 年と 4 年に各 1 名で計 2 名います。



2年生以下に女子部員がいないことがちょっと悩みです。

現在月に1回位のペースで山に行っていますが、大きな活動はやはり春や夏の合宿です。

今春は九州の九重・阿蘇・祖母山に、夏は白馬に合宿に行きました。さらに10月には苗名



小屋のメンテナンスに6名の部員が参加しました。

今年入部した1年生は「ワンゲルはアットホームなところがいい！」と意欲的に組んでいて、今後の部活動を盛り上げてくれそうです。また今年の大学祭では、50年余の歴史のある伝統のカレーライスの模擬店「妙高」を出店して頑張っていました。

*ワンゲルの名物「カレーライス模擬店」は、創立2年目に1期と2期の方々が始めたのが元祖で、現在に受け継がれています。

■ 苗名小屋 雪下ろし隊の募集

OB 小屋委員長 後藤 誠史 (39期)

苗名小屋除雪作業協力をお願い！

今年も積雪のシーズンがやって参りました。昨シーズンは豪雪でしたが、OB 諸兄のご協力のおかげで何とか冬期を乗り切ることができました。

今年の降雪量は未知数ですが、早急に体制を整えて厳冬期に臨みたい所存であります。毎年のお願いで恐縮ですが、皆様のご協力を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。

■ 除雪日程 (予定)

第一回：2007年1月19(金)～21(日) ※センター試験期間

第二回：2007年2月10(祝)～12(日)

第三回：2007年3月3(土)～4(日)

※実際の日程は除雪隊の予定により多少前後することがございます。

除雪に参加していただける方は後藤 (mag@remus.dti.ne.jp) までご連絡いただきたくお願い致します。

また、各回とも一人リーダーをお願いしております。こちらにつきましても併せてお願い致します。

なお、昨年度に除雪補助制度を改定しまして、OB への交通費等の補助を開始しております。詳細は下記 URL をご参照下さい。

http://homepage2.nifty.com/versteckspiel/dokument_011.html



矢倉岳の紅葉 06. 12. 2

YWVOB 会会報第 34 号

発 行 : 横浜国立大学ワンダーフォーゲル部 OB 会

発 行 日 : 2006 年 12 月 25 日

発行責任者 : 嘉納 秀明(1)

編集責任者 : 編集委員長 下村 蓉子(10)

編 集 : 編 集 委 員 松本真理子(8)

印 刷 所 : 株式会社 カワチャ・プリント (東京都港区新橋 5-31-7)

編集にご協力いただいた皆様、ありがとうございました。